

冬に見つけやすい

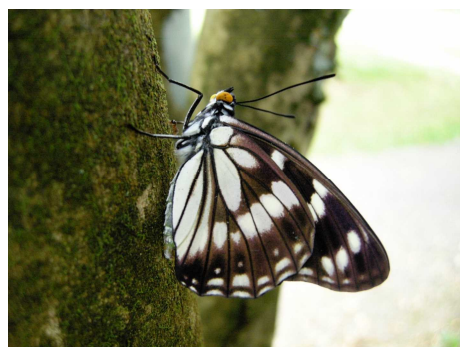
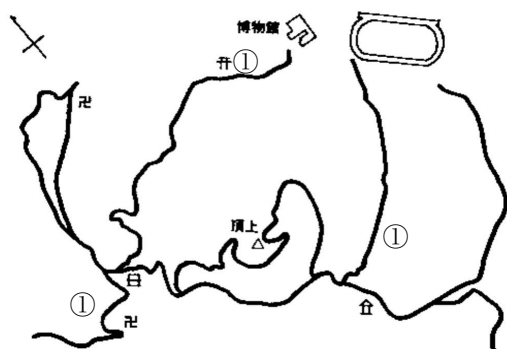
ゴマダラチョウの越冬幼虫 (地図中①地点)

ゴマダラチョウは、日本の国蝶であるオオムラサキの仲間です。成虫は名前のおり白と黒のモザイク模様をしています。高い樹上を飛ぶために気付くことは少ないのですが、幼虫は簡単に見つけることができます。その手段の第一はエノキを見つけることです。幼虫が、冬期落葉するエノキの根元で休眠して越冬するからです。

手段の第二は、エノキの落ち葉めぐりです。12月、エノキが落葉し始めるころ、ゴマダラチョウの幼虫は4齢になっています。餌がなくなった幼虫は幹を降りて、根元の落ち葉の下側についたまま冬眠に入ります。エノキの根元にはたくさんの落ち葉があります。これを一枚一枚ひっくり返して探してみましょ。写真のような茶色の幼虫がついています。適度の湿り気があり、暖かい落ち葉のふとんで冬を過ごすのです。

根元からあまり遠くにはいきません。また、温度変化の少ない北側に多く越冬します。確かめてみてください。写真の打吹公園椿の平のエノキには以前はたくさんいたのですが、最近では落ち葉が掃除されて持ち去られるため、いなくなっていました。落ち葉を掃除して移動したり燃やしたりしてしまうことは、自然の保全に反することなのです。

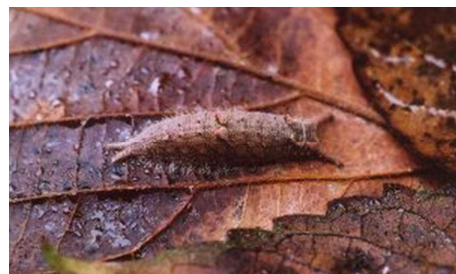
エノキは海岸近くに多い木ですが、屋敷でも大木が保存



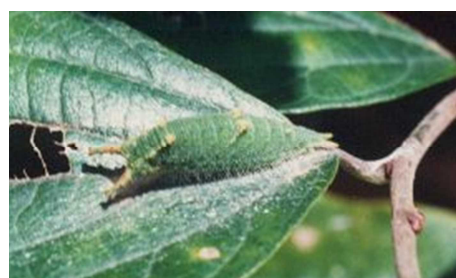
ゴマダラチョウ



椿の平のエノキ



ゴマダラチョウの越冬幼虫



されていたり、社寺の森に目立つ木です。打吹公園 越冬後のゴマダラチョウの幼虫の近く、賀茂神社のエノキは落ち葉が残り、ゴマダラチョウの幼虫がよく見られます。

春、エノキの新葉が出ると、冬眠から覚めてエノキの幹を登り、葉を食べて成長します。色は緑に変わります。いる場所に合わせて変えるのです。